

私が日本の義務教育で学んだこと

動画リンク: <https://youtu.be/inxQsJhQWFI>

今回は「私が日本の義務教育で学んだこと」を学びながら、日本語を勉強しましょう。

この動画は、前半は少しゆっくりのスピードで、漢字には「ふりがな」があります。

後半は少しだけ速く（＋ 20%）なり、漢字に「ふりがな」はありません。学習にお役立てください。

■自己紹介

私は吉沢たかしといいます。出身は日本の西にある町です。自然が多く、山と川にかこまれた場所で育ちました。今は都会で生活していますが、子どものころの体験を今でもよくおぼえています。趣味は読書と散歩です。休日は新しい本を読んだり、公園や川のそばを歩いたりします。歩きながら考えごとをしたり、季節の変化を感じたりする時間を大切にしています。

今回のテーマは「日本の義務教育で学んだこと」です。義務教育とは、日本で子どもが必ず通う学校のことです。小学校と中学校の9年間で、国によってちがうこともあります。

私は小学生や中学生のときに、多くのことを学びました。国語や数学などの勉強は、今の仕事や生活の土台になっています。また、友達や先生とのかかわりから、協力することや責任を持つことの大切さを知りました。学校生活には楽しいこともありましたが、むずかしいと思うこともありました。そのどちらも、自分の成長につながったと感じています。

この動画では、私が義務教育で学んだことや体験を、できるだけ分かりやすく紹介します。日本の学校や文化に関心のある方に、参考になると嬉しいです。

■日本の義務教育のしくみ

日本では、子どもが必ず通う学校の期間を義務教育といいます。これは9年間で、小学校6年間と中学校3年間を合わせたものです。小学校は6歳から12歳まで、中学校は12歳から15歳まで通います。この9年間はすべての子どもにとって大切な学びの時間です。

小学校では国語、算数、理科、社会などの基礎教科を学びます。国語では読み書きを身につけ、算数では計算や図形を学びます。理科では身近な自然を観察し、社会では地域の生活や歴史を学びます。体育や音楽、図工もあり、体を動かしたり表現する力をのばしたりします。

中学校に進むと、学ぶ内容がさらに広がります。英語の授業が本格的にはじまり、理科では実験も多くなります。社会では地理や歴史をより深く学びます。美術や技術、家庭科といった教科もあり、ものを作ったり生活に役立つ知識を身につけたりします。

また、日本の義務教育には特徴的な文化があります。小学生が使うランドセルはかたいかばんで、6年間使い続けます。中学生になると制服を着る学校が多く、学校ごとに色やデザインが決まっています。授業は1コマ45分～50分で、1日に5～6コマあります。朝は8時半ごろに始まり、午後4時ごろに下校します。授業と授業の間には10分ほどの休み時間があり、昼には長めの昼休みがあります。時間割が決まっていて、日ごとに学ぶ教科が変わります。

中学校を卒業すると義務教育は終わりになります。その後、多くの生徒は高校に進学しますが、中には就職する人もいます。高校に進むことでさらに学びを深めることができ、社会に出ることで早く働く経験を積むこともできます。進路の選び方は人それぞれで、将来の生き方につながる大切な選択になります。

このように、日本の義務教育は学力だけでなく生活のリズムや社会のルールを学ぶ場でもあります。決められた9年間を通じて、子どもたちは知識と生活の力を少しずつ身につけていきます。

■小学校で身につけたこと

私が小学生のときに学んだことは、今の生活の土台になっています。最初に大切だったのは、読み書きと計算です。国語の授業でひらがなや漢字を覚え、短い文章を声に出して読みました。算数では足し算や引き算から始まり、かけ算やわり算を学びました。毎日の練習を重ねるうちに、文字や数字を使う力が自然と身につけていきました。

印象に残っているのは掃除の時間です。日本の小学校では、児童が自分たちで教室や廊下をきれいにします。ほうきで床をはいたり、雑巾で机をふいたりするのです。面倒に感じることもありましたが、みんなで協力すると教室が見えがえるほどきれいになり、大きな達成感がありました。この経験から「自分の場所を自分で整える」という習慣が育ちました。

給食の時間も特別でした。給食は学校で用意される食事で、みんなで同じものを食べます。班ごとに配ぜんを行い、全員がそろって「いただきます」と言うてから食べます。食べ物への感謝の気持ちを学んだだけでなく、友達と会話しながら食べることで仲も深まりました。

さらに、行事も忘れられない学びです。運動会では一生けんめい走ったり、団体競技で力を合わせたりしました。遠足では公園や博物館を訪れ、普段の授業ではできない体験をしました。その中で、あいさつの大切さや交通ルールを守ることを自然に身につけました。列を作って歩いたり、先生の指示に合わせて行動したりすることで、集団行動の基本も学びます。行事を通じて友達との絆が強まり、協力することの大切さを実感しました。

このように、小学校の生活は知識だけでなく、人との関わり方や生活の習慣を学ぶ場でもありました。

■中学校での新しい経験

中学校に進むと、小学校とは大きくちがう世界が広がりました。まず授業の内容がむずかしくなります。英語の授業が本格的にはじまり、アルファベットの書き方や簡単な会話から学びました。理科では実験がふえ、火を使ったり、薬品をまぜたりする体験をしました。社会では地理や歴史を細かく学び、世界や日本の流れを知るようになりました。

もうひとつ大きな変化は部活動でした。放課後に行われるクラブ活動のことで、スポーツや音楽、美術などさまざまな種類があります。私は運動部に入り、毎日練習をしました。体力をつけるのは大変でしたが、仲間と一緒に努力する時間はとても貴重でした。試合で勝ったときの喜びや、負けたときの悔しさは、今でも強く記憶に残っています。

また、中学校では人間関係のむずかしさも経験しました。思春期という成長の時期で、自分の考えや気持ちをどう伝えるかに悩みました。友達と意見が合わないこともあり、ときにはけんかをすることもありました。しかし、そのような経験を通じて、相手の気持ちを考えることの大切さを学びました。

行事も小学校とはちがう形で心に残りました。文化祭ではクラスで劇や展示を作り上げ、協力して1つの作品を完成させました。体育大会ではチームワークを深め、仲間との絆を強めました。合唱コンクールも中学校ならではの行事です。クラス全員で同じ曲を練習し、声を合わせて歌うことで一体感が生まれました。最初は音がそろわず苦労しましたが、本番で響いた歌声は忘れられない思い出です。

そして、修学旅行も大きな楽しみのひとつでした。京都や奈良といった歴史ある町を訪れ、寺や神社を見学しました。友達と同じ部屋で過ごす夜は特別で、普段の学校生活ではできない深い交流がありました。旅行を通して歴史や文化を学ぶだけでなく、友達との絆をより強く感じることができました。

このように中学校は、知識を広げる場であると同時に、人として成長を実感する場所でもあります。授業や部活動、そして行事を通じて得た経験は、今の自分にとって大切な財産になっています。

■授業以外から学んだ生活の力

日本の学校生活では、教室で勉強することだけでなく、授業以外の活動からも多くの学びがありました。特に印象に残っているのは委員会活動です。学級委員や図書委員、体育委員などがあり、私は図書委員を担当しました。本の貸し出しや整理を続ける中で、小さな仕事でも責任を持ってやりとげることの大切さを実感しました。

また、当番活動も日常の学びの一つでした。黒板をふいたり、花に水をやりたり、給食を運んだり、さまざまな役割がありました。これらは毎日行いますが、学校やクラスによって内容やルールが少しずつちがいます。どんな役割であっても、担当になった人が責任をもってやりとげることが求められます。小さな仕事でも、誰かがきちんと果たすことで学校全体の生活が成り立つのです。当番を通して、「みんなの生活は一人ひとりの行動に支えられている」ということを学びました。

学校行事も大切な学びの場でした。運動会や文化祭では、役割を分担して計画を立て、全員で協力して準備を進めます。ときには意見が合わないこともありましたが、話し合いを重ねて工夫し、最後にはひとつの成果を作り上げることができました。この経験は、リーダーシップや協調性を自然に育てる場になります。

そして、授業以外で得たもっとも大きな学びは、人との関わりです。先生や友達との日常的な対話を通じて、考え方のちがいを知り、自分の視野を広げることができました。ときには意見がぶつかることもありましたが、そのたびに相手を理解しようと努力することで、人間関係を築く力が強くなりました。

このように、授業以外の活動は生活の力を育てるものでした。責任感や協力する心、そして人とのつながりを大切にする姿勢は、大人になった今も私の毎日の生活に役立っています。

■義務教育で感じた大変さ

義務教育の9年間には、楽しい思い出がたくさんありましたが、その一方で大変だと感じたことも少なくありませんでした。今ふり返ってみると、特に「勉強」「校則」「人間関係」の3つが大きな課題でした。

まず思い出すのは宿題とテストです。小学校のころは、毎日のように漢字の書き取りや計算ドリルが出されました。くり返し練習するうちに力はつきましたが、遊びたいときに宿題をしなければならないのはつらく感じました。中学校に入ると教科がふえ、宿題の量も一気に増えました。テストも本格的になり、点数で自分の実力がはっきりと示されます。良い点数を取れたときはうれしかったのですが、思うように結果が出ないと落ち込み、自信をなくすこともありました。

つぎ たいへん こうそく こうそく がっこう まも
次に大変だったのは校則です。校則とは学校で守らなければならないルールの
こと。髪のかみのけの長さや服装に細かい決まりがあり、靴下の色や持ち物の
せいげん せいげん せいげん せいげん せいげん せいげん せいげん せいげん せいげん せいげん
制限されることもあり。遅刻や忘れ物をすると先生に厳しく注意され、
じゆう じゆう じゆう じゆう じゆう じゆう じゆう じゆう じゆう じゆう
自由が少なく感じることも多くありました。当時は厳しすぎると感じました
が、いまかんがえ、規則を守ることで集団生活が保たれていたのだと理解できま
す。

にんげんかんけい おお なや ともだち かんがえかた あ
そして、人間関係も大きな悩みのひとつでした。友達と考え方が合わなかつた
り、グループの中でうまくなじめなかつたりすることがありました。ときには
けんかを けんか けんか けんか けんか けんか けんか けんか けんか けんか
して仲直りがむずかしいと感じたこともあります。中学生のころは思
春期で心がゆれやすく、人との関わりに敏感になっていたのだと思います。し
かし、そのような体験を通して、相手の気持ちを考えることや、ぶつかった後
にどう関係を修復するかを学ぶことができました。

べんぎよう こうそく きび にんげんかんけい なや とうじ
このように、勉強のむずかしさ、校則の厳しさ、人間関係の悩みは、当時はと
ても大変でした。しかし、その一つひとつと向き合うことで、少しずつ自分を
せいちょう せいちょう せいちょう せいちょう せいちょう せいちょう せいちょう せいちょう せいちょう せいちょう
成長させることができました。苦しい時間も、今ふり返れば人生の大切な学び
の一部だったと感じています。

がいこくじん にほん ぎむ きょういく まな
■外国人が日本の義務教育から学べること
にほん ぎむ きょういく にほんじん がいこく ひと まな ぶぶん
日本の義務教育は、日本人だけでなく外国の人にとっても学びになる部分があ
ります。大きな特徴は、勉強だけでなく生活全体を通して成長を目指している
こと。読み書きや計算に加えて、掃除や給食、当番活動を通じて協力する
ちから せきにんかん そだ
力や責任感を育てます。

がいこく ひと み おどろ てん じゆう すく
外国の人から見ると驚く点もあるかもしれません。そのひとつは「自由の少な
さ」です。日本の学校では時間割がきちんと決められており、全員が同じ教科
おな じゅんばん まな せいふく みため せいふく せいふく せいふく せいふく せいふく
を同じ順番で学びます。ランドセルや制服など見た目もそろえ、校則によって
かみがた 髪型や服装にも制限がある場合があります。個人の自由を大切に
おどろ せきにんかん
する国の人にとっては、驚くことがあるかもしれません。

しかし、この「自由じゆうの少なすくさ」には良い面よめんもあります。全員ぜんいんが同じルールおなを守まもることいで一体感いつたいかんが生まれ、「みんなで一いっ緒しょに進すすむ」という感かん覚かくを育そだてます。掃除そうじを児じ童どうや生せい徒と自じ身しんで行おこなうこときゆうしよくや、給食きんじきで全ぜん員いんが同おなじ食しょく事じを食たべる仕組しくみも、日本にほんならではの文化ぶんかです。こうした活かつ動どうを通つうじて、協きよう力りよくする心こころや社しゃ会かいの中なかで自じ分ぶんの役割やくわりを果はたす意い識しが自し然ぜんに育そだちます。

日本にほんの義ぎ務む教きよう育いくを知しることは、外がい国こく人じんにとつて文ぶん化かの違ちがいりかいを理り解かいするききっかけけになります。日本にほんの学が校こう生せい活かつは自じ由ゆうが少すくないかんと感かんじるかもしれません。しかし、その中なかから協きよう力りよくする心こころや責せき任にん感かんが育そだつことには大おおきな価か値ちがあるわと私わたしは思おもいます。

さらに、自じ分ぶんの国くにの教きよう育いくと比くらべることで、日本にほんならではの良よさはっけんを発は見けんできます。同どう時じに、自じ国こくの教きよう育いくにも誇ほこれる点てんがあると気きづくでしよう。こうした比ひ較かくは、両方りやうほうの教きよう育いくの魅み力りよくをあらためて感かんじる機き会かいになるのです。

■学校生活がっこうせいかつをふり返かえって感かんじること

義ぎ務む教きよう育いくの9年ねん間かんをふり返かえると、大たい変へんだったこともおもいだしめる思おもい出しゅくだいします。宿題しゅくだいやテスてトとで苦くるしんだ日ひび々ごうそく、校則こうそくの厳きびしさ、人にん間げん関かん係けいでの悩なやみけつは決ちして小ちさなものでありませんでした。しかし、時ときがたつとそれらは成せい長ちやうのききっかけだったと感かんじるようになりました。当とう時じはつらいと思おもったこといまも、今いまは感かん謝しゃの気持きもちにかわっています。

特とくに強つよく感かんじるのは、義ぎ務む教きよう育いくが人じん生せいの土台どだいになっているということよです。読よみ書みかきや計けい算さんの力ちからはもちろん、協きよう力りよくする心こころや責せき任にん感かん、困こん難なんに向むき合あう姿しせい勢せいは、すべがっこうせいかつそだてた学が校こう生せい活かつで育そだちました。もしこの9年ねん間かんがなかったら、今いまの自じ分ぶんは全まくちがう人ひとになっていたと思おもいます。

また、友とも達だちや先せん生せいとの出であいはいも大たい切せつな思おもい出でです。けんかや誤解ごかいもありましたが、それのを乗のりこえることで絆きずなが深ふかまりました。人ひとと関かわる中なかで学まなんだ思おもいやりや理り解かいする心こころは、社しゃ会かいに出でてからも大おおきな力ちからになっています。学が校こうで築きずいた人にんげんかんけい間い関ま係けいは、今いまでも自じ分ぶんを支さえてくれる宝物ほうもつです。

わたし げんざい きょうし こ べんきょう おし こくばん まえ た
私は現在、教師として子どもたちに勉強を教えています。黒板の前に立つと、
じぶん しょうがくせい ちゅうがくせい おもいだ しゅくだい
自分が小学生や中学生だったころのことをよく思い出します。宿題やテストで
たいへん
大変だったことがあるからこそ、生徒が勉強でつまずいたときの気持ちがわか
うんどうかい ぶ かっどう なかま きょうりょく けいけん
ります。運動会や部活動で仲間と協力した経験があるからこそ、子どもたちに
きょうりょく
「みんなで協力することの大切さ」を伝えることができます。

ぎむ きょういく え けいけん いま わたし しごと せいかつ ささ
義務教育で得た経験は、今も私の仕事や生活を支えています。そして、これか
であ せいと みらい ささ ちから
ら出会う生徒たちの未来を支える力にもなっていくでしょう。

わたし にほん ぎむ きょういく まな
「私が日本の義務教育で学んだこと」はいかがでしたか。
らん かんそう おし
コメント欄から感想をみんなに教えてください。
べつ どうが あ
それでは、また別の動画でお会いしましょう。



Japanese-listening-SUSHI

